

市芦救援会通信

市芦救援会通信 通巻97号 99/4 <1部100円> 発行人 玉本 格
市芦救援会 〒659-0001 芦屋市剣谷9 市芦分会気付 TEL 0797(32)1131
市芦反弹圧闘争を支援する会 〒650-0022 神戸市中央区元町通5丁目3の16 テーラビル3F

公判日程 1999年5月27日(木)の判決公判は延期になりました!



も／く／じ

4.10'99市芦復帰報告・激励会報告

原告全員の現場復帰をちとるぞ.....	救援会事務局.....	2
市芦高校教師職場復帰に願う.....	救援会 会長 玉本 格.....	2
負け続けても譲れないものがある.....	鈴木紀之.....	3
10+13+12+2.....	吉岡治子.....	4
被告の敗北宣言.....	弁護士 在間秀和.....	5
経過報告 12年余の闘いの成果.....	市芦分会 深沢 忠.....	6
兵高教・市民からのあいさつ.....		7
しなやか したたか 志においてしぶとい.....	救援会副会長 玉田勝郎.....	11

原告全員の現場復帰をかちとるぞ

市芦救援会事務局

去る四月一〇日、芦屋市民センターにおいてみだしの集会を開催しました。集会に先だって救援会幹事会をもち、支援への御礼と復帰に関する報告等を行いました。

統一地方選挙をひかえ多忙な中、兵高教、芦教組をはじめとした組合員や救援会委員、地域の父母、市民の方々約五〇名の参加を得て、体調を崩されていた玉本会長も出席されました。ここに厚く御礼申し上げます。

市芦分会からの経過報告では、復帰が二年余の闘いの成果であることを確認し、残る原告五名全員の復帰まで闘うとの決意表明とさらなる支援要請が行われました。鈴木・吉岡先生のあいさつでも、復帰への喜びと併せて同様の訴えがありました。

兵高教、芦教組からは今後も共に闘う連帯表明と激励のあいさつをいただきました。在間弁護士からは、復帰は被告の敗北宣言であると、勝利判決に向けての力強い報告をいただきました。

参加された市民の方々からも、復帰への喜びの声とあわせて深沢先生の結婚の話題

まで話が広がりました。各々の立場で、実に様々な個性あふれる闘いを共にしてきた方々のエネルギーが結集したためか、話の随所でヤジの応酬となり、笑いの渦が絶えることのない楽しい会となりました。このような多種多様な闘いに市芦闘争が支えられてきたことを実感させられました。

玉田副会長からは、市芦闘争の「志においてし」との指摘があり、最後に引き続きの支援を訴えられました。

集会に来られなかった支援の方々からも激励の声をいただきました。ここに重ねて御礼を申し上げます。



市芦高校教師

職場復帰に願う

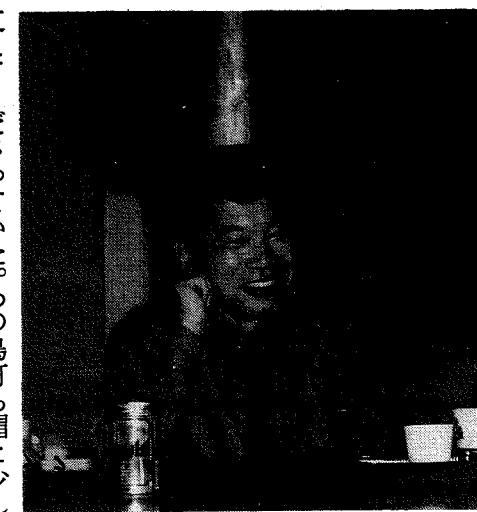
市芦救援会 会長 玉本 格

職場復帰された先生方の一〇年ぶりの明るさ。生徒や父母たちのそして先生方の喜びの声を聞くにつけ、これまでの恨みや理由も押しつけて、その交流のうれしさを満面にみながらおられる様子を拝見して胸が熱くなりました。この日を待っておられる五人の先生方、これまでの公平委員会での返答に窮した当局の詭弁や横暴を思い出すにつけ、教師の本来の姿に一日も早く戻りたかったという願望をひしひしと感じます。

来る五月二七日に最終日を期待していますが、一日も欠席せず最前列に傍聴し続けた私の願望は、これまでの誠実な記録に即して「この市芦教師たちの教育に対する熱意は何が正しかったのか」を答えることであつて欲しい。例えば、福岡教育大学の川向先生の解放教育論のすばらしさ、体験の中から教育の神髄を語られている真意を私たちは正しく汲み取っていただきたいという願望であります。「教育とは何か」という永年の思いをお示し下さることを心から期待いたしております。

負け続けても譲れないものがある

鈴木 紀之



昨年結審した時の、神戸地裁の門前で簡単な報告集会の場のことであった。市芦反弾圧闘争を支援する会の小川正巳会長が、「時の楔」ということを話された。人の思いを外に、時は何事も風景に風化させていくが、なによりもきついのには、闘っている者の内部に時の楔を打ち込んでいくことであるという。身にこたえるものであった。青雲闘争の折りに「せいぶん通信」に載せられていた先生の詩をあらためて思い出していた。

権力という「教育正常化」のための標的として、九名の教員が強制配転されて一〇年を超える。最初に強制配転された私にとつては、実に一二年半に及ぶ時が過ぎていた。強配先では何をしても、しなくても落ち着くことがなく不本意であった。自分の身の置き方に戸惑い続けたといっている。一方で、市および市教委のいう「教育改革」は進んでいった。学校現場に残っていた組合員にとつても、否応もなく突きつけられる現実を前にその心労は大きいもので

あつたろう。私たち強配された者以上に、学校の内部にいた者にとって不本意さは極まっていたかもしれない。自らが「教育改革」の担い手として強いられるがゆえに、負け続ける中で溜まってゆく疲労は深かったが、それでも譲れないものがあつた。

内示を聞いて、長い間願っていた復帰が目前のものとなり喜ぶべきだと思つたが、率直に喜ばなかった。深沢、滝山、小川、森村、石橋さんら五名が残されたままであつた。それだけでなく、復帰条件のあつた森村さんの復帰が実現せず、小川さんが再々強配されたことは市教委を差配するものの邪悪な意志を見せつけるものであつた。私らとのバランスで秤にかけられた結果とするなら、なおのこと堪えるものであつた。

しかし、何よりも五名が復帰を喜んでくれた。玉本先生が喜んでくださった。玉本先生は市芦救援会の会長を引き受けていたでいて、八〇歳を越えるご老体にもかかわらず、どんなことがあつても、必ず審理や裁判に欠かすことなく姿を見せて私たちを

支えてくださった。あの鳥打ち帽と少しはにかんだ笑顔と口をついで出る不正義を憤る直截な言葉にどれほど支えられてきたことか。出会う人みんなが「よかったね」と声をかけてくださった。うれしかった。

私は一二年半前の離任式で、生徒や同僚教員を前にして「私が戻ってくるのは、あなたがたのいるこの市芦です」と話したが、「教育改革」は「あなたがた」を一掃していった。それが今の教育現実というもので、そこで、そこから始めるしかないと言われている。朝文研の卒業生たちが激励会をしてくれた。そこには「あなたがた」が健在だった。

あらためて五名の早期復帰までお力添えいただきますようお願い申し上げます。

弁護団報告

被告の敗北宣言

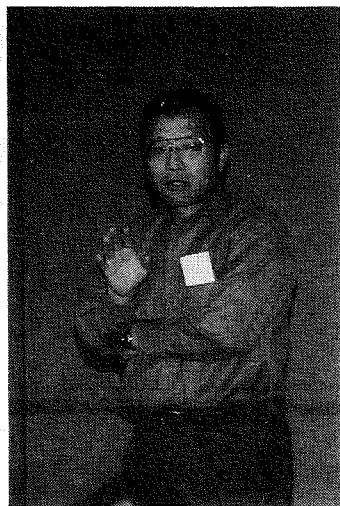
今回、三人の先生方を市芦に戻したことは、実質的な市教委の敗北宣言だと断言して差し支えありません。五月二七日に予定されている判決を目の前にして、何故に三人の先生方を戻す必要があったのか。理由を取り繕うことはいくらでもできるでしょう。しかし、敗北を自認したとしか考えられません。

市教委は、今回の辞令の後に裁判所に「弁論再開」を求める書類を出してきました。その趣旨は次のような意味です。「現在、裁判は事実審理が終結して判決を迎える段階になっているが、今回鈴木・吉岡両氏を市芦に戻したから、原告らの訴えの利益は失われた。裁判は、原告の訴えの利益がないことになるから、処分の不当を判断するまでもなく、『却下』すべきことになった。従って、鈴木教諭・吉岡教諭を市芦に戻した、という事実を裁判所が確認するために弁論を再開し、その上で『却下』の判決をすべきだ。」というわけです。これは全くのまやかしです。

弁護士 在間 秀和

なぜかと言うと、次のちぐはぐなことがあるからです。処分をした原告の教諭を市芦に戻した、ということになれば、麻田先生はすでに裁判係属中に戻っておられます。しかし、市教委は、麻田先生に関してその訴えを「却下」しろとは言いませんでした。今回の書面で、麻田先生についても鈴木・吉岡両先生と同じように却下せよ、というのです。もし、今回の異動で「原告の訴えの利益がない」ということになったのであれば、昨年審理が終結するまでに、麻田先生についても「却下せよ」と求めているなければ意味がありませんし、趣旨は一貫しません。

私たちは、今処分を争っている先生方を仮に異動という方法で市芦に戻したとしても、処分が撤回されているわけではありませんが、目に見えるところでは給与面においても大きな不利益を被ったままになります。私たちの要求は、あくまでも強制配転の処分が取り消されない限り裁判を続けざるを得ない、との主張を展開してきました。



た。如何に市芦に戻したとは言え、それにより不利益がなくならない限りは裁判は続けられなければなりません。また処分の不当の判断も裁判所により示されなければなりません。この点を認めざるを得なかったからこそ、麻田先生の訴えに対しても市教委は「却下」を求めなかったのです。

ところが、今回、麻田先生を含めて市芦に戻した先生方について、訴えを「却下」せよ、と市教委は言い出したのです。これは即ち、市教委自身が、「訴えの利益」がなくなった、ということを行っています。

これは、私たちの理解では、「処分の撤回」という意味でしかあり得ないのです。即ち、市教委は、「処分の撤回」をしたからこそ、「訴えの利益がなくなった」と言っているとした考えられないのです。市教委は、直ちに「処分の撤回」に伴う様々な救済措置をとるべきでしょう。

今回の異動が正に判決直前になされ、ま

10
+13
+12
+2

吉岡 治子

今日(一九九九年四月二二日)三岸節子の死を知り、深い衝撃と様々な想いが交錯した。私が、三岸節子の美術館を創ろうと想い立ったのは、一九八九年、強制配転二年目の秋のことである。その後九年を要して一九九八年十一月、生誕の地、愛知県に「尾西市三岸節子記念美術館」が誕生した。オープニングには来られなかったが、「何物にも代え難い無上の喜び。今日まで生きて闘ってきた九〇年の喜び」と語っておられたと今日の朝日新聞が報じている。加えて、秋野不矩の談話があり、「女だからって妥協しないで一緒にがんばりましょう」と三岸さんから声をかけられ、励まされたところ。お二人は共に、洋画家、日本画家の「第一人者」であるが、二〇世紀が終わろうとする今でさえなお女性の固有名詞がつく数少ない美術館のご当人である。(一九九八年、静岡県に「天童市立秋野不矩美術館が開館」)

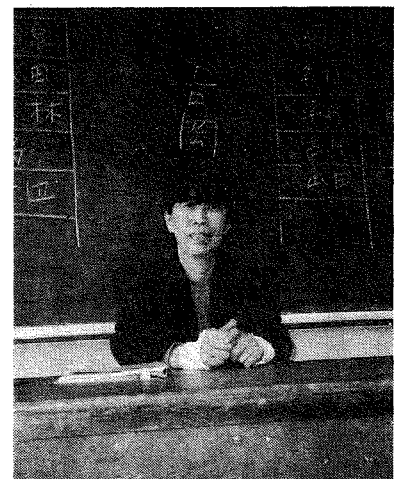
常」の授業をはじめ二週間が経過した。勿論、この四月を強配先の芦屋市立美術博物館で迎えるのと本来の職場である芦屋市立芦屋高校で迎えるのでは天地の差である。しかし、「十年+十三年+十二年+二年」高槻六中+市芦高+強配+市芦高「定年」を考えると、日に日に怒りがこみあげてくる。この貴重な一二年間をどう弁償してくれるのかと言いたい。こともあろうに、処分者側は、職場復帰したのだから訴えの利益はなくなった、却下せよと目前の神戸地裁判決回避にやっきである。教職から事務職へ転職させるといふ「異常」な人事異動で始まったこの処分は、私の一二年間の怒りと苦しみを認知する判決によってしか真の一步は踏み出すことはできない。

先生らのことを見殺しにしたこの先生や」と。弾圧は、人を分断させ、生徒をスボイルしていくのだ。それでも、私の左の背の後方には長瀬さんが座っていて、私の方は残り時間二年だけ二人して仕事を再開でき、何にもましてうれしい。

三岸さんや秋野さんをはじめ、有名、無名に関係なくよき仕事をやり抜いて来られた多くの女性の生き方を前方に視ながら、私たちのたまたかにもそれにつながっていきたいと想って、書き、描き、詰めの一二年でもあった。

この教職復帰は「強配は私たちにとって女性差別である」と闘ってきた吉岡・長瀬の勝利である。闘いの文化の質を明らかにしたい。

長い年月、ご支援誠にありがとうございました。全員復帰までよろしくお願い致します。



美術室にて

今日は私の兵高教副委員長としての初仕事になるようです。

この間、ずっと定時制統廃合反対の運動に取り組み、街頭署名も短期間で三万四千人余りの署名を得た。しかし、残念ながら尼南もつぶされようとしている。

そこで、私がなぜ兵高教の副委員長になったのかといえば、尼南の佐野校長が警察官を導入するという事件があって交渉をしてきたが、尼南を卒業した障害児の母親が佐野校長が「障害児に卒業証書を出したのには間違いだった」と言ったので、だったら卒業証書を返しますと言って佐野校長の前に行って卒業証書を返したんです。そのことによって、佐野校長が初めてグラグラとしたんです。その場面を私もそこにいて自分の体が硬直して身動きできなかった。

なぜかという僕は昨年は尼崎支部の本部執行委員で出ていたんですが、組合の立場から一切佐野校長に抗議できなかった。そういう組合が障害児の親に、宝物である卒業証書を返させてしまった。そういうことで私も何か突きつけられているような感じになって身動きできない状態になった。

復帰をバネに組合をリード

兵高教副委員長 吉田 豊

このままではいろんな考え方の違いがあっても組合がこのままではアカンと、問題提起できればと思いついて結果として副委員長ということになった。

気が付いたら市芦分会は兵高教の中の最大分会です。今まで市芦にはあまり興味はなかったんで（それは本音や）（笑）、市芦の人は疲れているんじゃないから、あまり表舞台には出てこなかった。だけど一〇数名の最大分会で、今回、鈴木さんと吉岡さんが帰って、元気が出てくると思うんで、昨年の反省として、定通制統廃合反対闘争が遅れてしまったし、その失敗を繰り返したからアカンので、今後全日制の統廃合の話になつていくので、市芦の廃校問題も出てくると思う。市芦分会が是非兵高教をリードして頑張つて下さい。

「反省しない先生」を戻した勝利

兵高教阪神支部長 石塚 健

三人の先生の復帰おめでとうございませう。いろんな力の要因が重なり合つてこのことが実現したという話ですが、やっぱり根本は救援会に結集している人達の力と、その先頭で頑張つた市芦の先生方の闘いがこの結果をもたらしたものだと思っています。なぜこんなふうに言うかというと、だいたい

ぶ前ですが、「九人の先生は反省せよ」という格好で現場から放り出されたわけですが、でも、反省しないまま現場に返したいという話を以前した。お二人の先生はいつも反省しないまま現場に帰っていくわけですから、これは我々の勝利だということをおさえていいと思います。

さらにこんなことを考えたんですが、実は反省せよと九人の先生を放り出したが、そうすれば市芦が正常化するだろうと当局は思っていたようですが、その九人の先生は放り出された先でそれぞれ闘いを始めたわけですね。まったく仕事をしないと、かつてな仕事をどんどんすると、このままでは市教委が大変なことになるということで、おまけに公平委員会では恥のかさされればなしで、裁判の見通しも暗いと、当局は実はチャンスがあれば何とか帰したいと考え始めたんじゃないかと思う。各々要因が重なって、そういう意味で当局の方が反省しない先生を戻し始めた。やはり勝利とよんでもいいと思う。

あと二年くらいだが、当局は大したことではけん高を括つてるだろうけど、とんでもないことになると思います。そういう意味ではまた大きな闘いが始まると思う。残りの五人の先生の早期復帰は近いと思うので、今後とも市芦救援会と共に兵高教阪神支部は歩んでいきたいと思っています。

た、それに伴って「弁論の再開」を求めるという策動は、市教委の裁判引き延ばし作戦としか考えられません。彼らは、何としても敗訴判決を避けたいのです。もし彼らが処分に自信があり、勝訴判決を確信しているのなら、今回のような姑息な「弁論再開の申立」などする必要はないでしょう。堂々と判決をもらえば良いのです。

このようにどう考えても、今回の市教委の対応は、敗北を宣言したものと受け止めるを得ません。

私たちは、残る五名の先生方の早期の復帰を求めて闘いを続けていく必要があるでしょう。最後まで共に闘いましょう。

一九九九年四月二五日

経過報告

一二年余の闘いの成果

市芦分会 深沢 忠

鈴木さんの場合、一番最初に配転され、一九八六年一〇月から一三年近くになります。復帰については組合も交渉してきて、まだ五人残っているので交渉は続いている。ただ、鈴木さん、吉岡さんの場合は、定年退職も近づいていることもあり、このまま置いておくわけにはいかないと、二人

の復帰については強く要求していました。ただ当局はそれを認めて復帰させるといふほど甘くないわけで、この間、震災で財政が苦しいという中で人件費削減というところが大きくあつたと思います。私たちがとばすためにわざわざ市教委の中で増員したりして受け皿を作つて配転したわけですね。今回市芦では講師を辞めさせ、人件費の削減というのがあつた。吉岡さんの元の職場は人員削減するという形でやられたのが今回の三人の復帰です。

ただその背景があつたにしても、やっぱりずっと一二年余も闘い続けてきて、裁判闘争も続いていることについて、当局もなんとか整理したいと思つてきた。あるいは、実務レベルで担当者が処理に苦しんできたこともあつて、それらの中でこの復帰が進められてきたのだと思います。

ただ、三人が復帰したことは嬉しいことには違いないのですが、鈴木さんが復帰と知った時に最初に言ったのが「定年二年前に、とばされたのをまた勝手に戻された」とは悔しい」と。

小川さんが仕事の中で上層部と意見対立して再々配転になり、また森村さんが復帰の条件があつたにも関わらず、返さなかったということから言えば、私たちの中に分断を持ち込むような形であり、あまり素直に喜べない状況です。



今後の課題の方がたくさんあるという復帰ではありません。でも、九人のうち三人が戻つた、三年前の麻田さんを入れて四人戻つたというところは、やっぱり喜ぶべきことです。しかもこちらから謝罪して戻つたわけでもなし、闘いの中で戻つていったのであり、そのことは闘いの成果としておさえない。当局にごめんなさいと謝らせてないことについては、これからきちんと裁判闘争を闘いながらケリをつけていきたいと思っています。

戻つた市芦の状況はとばされた時の状況とはかなり違っていますし、大変ですが、今後とも皆様の支援を宜しくお願いいたします。本日はどうも沢山お集まりいただき有り難うございます。

一生離さへん

麦の家 永岡隆仁

市芦の先生とは、一五年以上の付き合い。こんなに市芦と腐れ縁になるとは思わなかった。家の一番上の子が市芦の入学にからんでから、それでも一〇年たつ。

三年前、麻田先生が復帰した時、真ん中の子が市芦に入った。うちの子は市芦に行ったら茶髪にせないかんというて(笑)、今年卒業した。入れ替わりに一番下の子が市芦に今年入った。麻田さんが担任になっている。昨日もうちの子が市芦に入ったら耳にピアスせないかんいうて(笑)、三つも穴を開けて、痛い、痛い、痛いいうて、明日からピアスあけて行きますので、あと三年お世話になります(笑)。

市芦の保護者として私も市芦闘争をやってきた。市芦の仮設に住んでました。赴任してました(笑)。役所から早く出て行け、出て行け言われて、強制配転もされそうになりました(笑)。でも最後まで残ってました。ただ、その後オレが市芦のグラウンドの仮設に入る時、深沢さんが「あんなところよう住むな」と言ってる(笑)、明日が引越しようというその晩に荷物詰めてる時に、そんなこと言うか(笑)。

ところで深沢さんはいよいよ結婚で(笑)、その弁護士さんの嫁は、まだ見たこともないし、さわつたこともないし(さわるな! 笑)。この間ある学校でバイクに障害児の子があてられた事故があつて、これはもう弁護士の出番やなと思つたんやけど、深沢さんは一切弁護士の話は出さなかつたな(笑)。何とかしてくれ言うとなのに、冷たいやつちゃでこいつは(笑)。

そんなこんなで、俺らも市芦闘争をしてきた。こたわつてきた。何にしても腐れ縁です。で、僕らがこの芦屋におる限りは、まわりついでに離さないんで(引越しの予定は?) (笑)。これからは宜しく。一生離さへんし。鈴木さんが復帰しても一緒やで(あとの五人は帰りたくない言うぜ)(笑)。俺は五人が帰っても帰らんでもどつちやでもええねん(笑)。芦屋におつたらええねん。これからうちの子を三年間宜しく(笑)。

オアシスで市芦は日本一?

市芦保護者 永岡英子

昨日、市芦の入学式に行き校長の訓辞を聞いた。あの人「市芦を日本一の良い学校にするためにオアシスを守って欲しい」と言つた。私はふだん人の話をあまり聞かん

人間なんやけど(笑)、オアシスで何かなと思つた。

オー「お早う」を言う。
アー「有り難う」を言う。
シー「失礼しました」を言う。
スー「すいません」を言う。

私はこれは野活センターかなと思つてね(笑)。ふと先生方の顔見たら鈴木先生は寝てやんねん(寝てへんよ)(笑)。大角先生が横で寝てた。あ、そうか、ここは野活センターやからええんか(笑)。

その後北村市長が出てきて「日本一の学校にするとされたことに感激した。この校長があつて、この一年生はすばらしい」と。うちの息子にあとで、あの話聞いてたかという「学校をなくそうというてんのに、俺らがおる間にでも市芦があるかどうかかわかれへんという噂があるのに、日本一の学校になつてよう言うわ」と(笑)。うちの息子もしっかりしと。

麻田先生が担任になつたというんで、どうやと聞いたら「あのオバハン、おかんみたいなオバハンや」(笑)。(ようみとる)(後で補足して下さい。麻田(笑))

市芦に入つたとたんに、鈴木先生、吉岡先生が帰つてきた。良かった。これでうちの子は無事に市芦を三年間で卒業できるやろう(笑)。茶髪もええし、何してもええと、昨日の家族会議で決めました。(俺は

反対したけどな(父) (笑)。(そら反対せないかん)

世の中に出た時に生きていく力を付けて欲しい。家の生活を向上せないかんしね。どうか宜しく生きる力を。

オカンと同じ波長

市芦分会 麻田利子

担任の麻田です。取りあえず一年間は責任を持ちたい。二年になったらクラス変えて欲しい(笑)。というのも一年から二年に上げれば後はスムーズにいく。一年でつまづく卒業せずにおる子が多い。

お母さんに似ているといった話は、入学式当日、クラスで貴重品を袋に入れて預かるうとして、携帯電話を持ってる子が二人いた。

一人が茶髪の子でもう一人がここの息子。「この袋に入れて」いうたら「ええわ」。私は優しいから、「入れたらどう」「いややいうとるやないか!」「やかましい! 明日から学校に来るな!」と言つたら、すぐ入れました(笑)。(体が反応する波長が一緒なんや)(笑)

芦屋をおもしろく

市民 小寺山 康雄

芦屋市民という紹介ですが、臨港線から南はね、市民じゃない。何で市民じゃないかという(税金払ってない(笑))、間接税は払ってるよ(笑)。芦屋に来たときに、水道局の人が説明した。芦屋には二つ水道がある。一つは、奥池のミネラルウォーターを飲む階級と、もう一つは、汚れた琵琶湖から淀川を通ってくる水を飲む階級。奥池はどのようなあたりと聞くと、「阪急の北で六麓荘のあたり」という。では二つの水道料金は違うのかと聞くと、「同じ」やという(笑)。

シーサイドが作られたときはおおめにもめて、県が造成したけど、芦屋市も水道などの工事で金がかかり、しかも、入ってくる人間は税金が安い人間しか来ないと(笑)。したがって「みなさんは芦屋市民ではない。瀬戸内市民だ」と言われたんです。

ほかでもそやのに、後から付け足したようにできた陽光町あたりは市民であるはずがない(笑)。そんな芦屋に来てもう三年。そのころ、あのアントニオ・グラムシを原著で読んだ鈴木さんがとばされた。

(アントニオ猪木か?) (笑)。やつぱり市民ちゃうやろ(笑)、市民というのはいちよつと教養があつてやな(笑)。その鈴木さんがとばされた時に、何かしようと、ビラを三回ぐらいいましたかな。あれは歴史的名文です(笑)。三回ぐらいいまして、息切れして、まあ、それ位でええとこにくやろなと思つたら、いつまでも続くし(笑)、あの、僕は長いこと持たないんです(笑)。はじめ、おもしろい時だけやるんです(笑)。(それが闘争や!)

あの、市民運動なんて、面倒くそうて、大嫌いやったんです。今でもあまり好きではないんです。そしたら、四年前に震災が起こつて、またムチャクチャしとるわけです。自分で家を建てるいうてんのに、まかりならんいうて、「おまえの所は区画整理で削る」とかいいて、中央地区などまだ更地が多いでしょう。まだ決まってるないから家を建てよう思つても建てられないんです。そういうような運動をまた四年前からやつたりして、これは僕にしてはめずらしく四年も続いています。

今回、二人、三人と返して、裁判はそんなに楽観できるんかなと思つけど、ともかく、自分らが闘つてきたという事実がすごい。ほかの市民運動も一応四年先までやろうと言ってます。こういう市民運動も皆さんにとって応援になるだろうし、これか

らの芦屋もおもしろくできるやろうし、市民でない市民が市民運動をしてみると。まず、おめでとうございます。鈴木さんも吉岡さんもあと二年位しかないと思います。が、せっかくだとつたんやから、跳ね上がってがんばって下さい。

深読みはやめよう

全港 中村 猛

今、春闘で、私のところは産別組合ですから五、六社と話しているんです。向こうさんの言い分はめっちゃめですね。世の中は年功序列賃金というののもうダメだと言っているから、今年の日経連、経団連が何を言っているかという、「定昇はするけどベアしない」と、おかしいんです、それだったらまず定昇をやめんかい、ベアでこんかいと、彼らもその筈なんですが全く一貫性がない。学校の先生はいろいろ分析するのが好きですが、三人帰ったから、あと五人をどうするか、ということだけでしよう。深読みはやめよう。日本の運動は深読みばかりしてダメになってる。(俺らもいきあたりばったりや(笑)いきあたりばったりの方の方が強いんやから。(それであかなんだのが阪神やないか、ちっと位考え(笑)あと五人ということ、とりあえず勝ったと。

僕が結婚するまで闘いを続けて

兵高教書記次長 金山 健二

今年から本部の書記次長で出ています。一三年になるんですね。僕が教師になって一三年なんです(笑)。右も左もわからんときから、市芦の先生が、わからんけどとばされとると、市芦の正門の桜の木の下につれていかれたんです。(ダマシやな(笑))それからようわからんままに一三年たつて(笑)、ヤジいのはどうやって飛ばすんかいのうのを一つ勉強して、中堅になってしましました(笑)。

一三年のこの市芦の復帰もうれしいというか、それ以上にビックリしたのは深沢さんの結婚で(笑)、独身というのは、僕の頭の中には、まだあの人とあの人がおつて、まだ大丈夫やとおもったんですが、深沢さんが電撃結婚されて、あと、私と同じ職場の阿部さんがおられるし、他にも、まあ、壁の一つが崩れたと。もう三五歳になりましたから、深沢さんのお年になる位までに(長いな)(笑)、残りの五人の先生が帰られるのと、僕が誰かいい人を見つけないのと、闘いというのは大事ですから(笑)、市芦闘争は僕が結婚するまでは続けてほしいと思います(笑)。

定通統廃合反対闘争は継続中

県高支部書記長 阿部 拓二

今名前の出た阿部です。昨年、本部の定通部長をいたしました。今年、県高支部の書記長をすることになってます。大変な仕事やなと思つてます。定通統廃合では、尼南も東神戸もやられました、まだ撤回せよとの運動をしています。まだ終わってないんです。これを全日制でも広げたいと思つてます。市芦もよろしくお願いします。

大変やろうけどがんばって

城内高校退職 辻 正博

三人の先生方、おめでとうございます。ただ、いいとこに帰るんじゃなくて、しんどいやらなと思うんです。五八歳で帰られるんやから大変やらなと思うんです。

昨日、離任式にいったら、城内高校は今年一年生が六五名おりまして、普通一クラスなのを二クラスに分けてました。それだけ盛況になってるんですけども、三十一日の辞令交付式があつたんですが、尼崎の教育長のところに行つた時「今年は定時制も生徒が多くなつてるのでよろしく」と言つた

ら、「もう単位制高校ができた城内もどうなるかわかりませんよ」という言い方ですね。「働いてる子がおらん」と言うので、「そんなことないですよ」と言つても、「晩に働いてるやつがおつて、昼にいけるんや」と。「今年は働いてる子が増えてますよ」と言つても、「単位制に行くやろ」と、ことごとく否定されました。

尼崎の教育長がそういうことを言つてますから、定時制というののもつときびしくなるなという感じがしました。だから、市芦も廃校の話が出てますが、向こうは本気で考えてるやろなと思います。鈴木先生らが帰られて、また、なんか始まるんやろなという感じがします。大変だろうと思ひますけど、がんばって下さい。

市芦の先生らが好きで

兵高教丹有支部 加藤 博康

元々阪神支部にいたんですが、都合で丹有の方にかわりました。公平審からずつと行つてます。公判になって一回だけ欠席しましたが、なんで行つてたかという、市芦の先生らとか阪神支部の先生らが好きで、執行委員会であれしくて。自分自身が教員をやめろと言われたらどうか、ということを考えてなかったことを、最近ちょっと

わかりかけてきた。教師という仕事が好きになつて、できたらずつと思ひ始めて、それを否定されたら、心の支えを失つてしまふんじゃないかと考えて、今回先生方が帰られて、執行委員会であつて、本当にうれしく思ひました。おめでとうございます。来年は何人かなと思つてます。

市芦教育が心の支え

元市芦教員 西田 正博

おめでとうございます。大阪で、まだ全教の組合の中にいます。ほとんど闘争のお手伝いもできませんでした。大阪で大変な教育現場におりまして、その際に、僕自身の心の支えになつてるのは、市芦でいろいろ教えてもらったことだと思つてます。

しなやか したたか

志においてしづとい

救援会副会長 玉田 勝郎

今日は三人の先生らがとりあえず市芦に戻れるようになったことの報告ができて、救援会としてはうれしく思ひます。ちよつとだけおいしい酒が飲める会に、お忙しい

中、集まつていただきありがとうございます。

私は、昨年の一二月に救援会で忘年会をして、その時に、深沢さんが、一見楚々とした女性を連れて会場に入つてきた。その時に、小川正巳先生が、「市芦でこんな良い酒が飲めたのは初めてだ」と言われた。私も同感でした。

救援会を作るとき、なんかやれと言われて、では、深沢さんに嫁さんを世話することでは、深沢さんにもうダメかなと思つてたんですが、突然深沢さんが弁護士を引つ張り込むと同時に、手をつけて嫁さんにした(笑)。私は、これは市芦闘争の一二年間の唯一、最大の成果だと思つておつたんですが、三人の先生が現場に戻れるというニュースが飛び込んできた。

私は思うんですが、例の日教組が一九九六年に文部省と和解して以降、さまざまところで権力が理不尽な、不条理な攻撃を労働者にかけてくることがいっぱいあつて、しかし、それに抗ひ続けてゆくこともあちこちで生まれましたが、やっぱり大きな組織は誰も支援してくれなかった。その中で孤軍奮闘、今日まできたわけです。

よく考えてみれば、市芦の教師は、元の学校に戻れるなんて事を本心では思つてこなかったんです。それはなぜかというと、

部落、朝鮮、障害者、これに触った、そこで何かを語った教師は、やっぱり戻れない。たとえば、広島は、この卒業式を前に猛烈な攻撃を受けました。あれは、部落を触ったからです。何もできなかったけれども、それでも何かを語りかけたということがある。ですから、そういう状況の中で、市芦を追放された教師たちが戻れるというのは、私は思っておりませんでした。

ですが、それはいろんな力関係とか、いろんな状況があつて、その中で何よりも市教委は追いつめられた。それは、在間弁護士に報告にあつたつもりだと思えます。ですが、この後、戻ったら学校でどんな仕事をされるかということは、ここで言うべきではないと思います。

やっぱり、今の状況は部落問題、朝鮮人問題、障害者問題に関わった教師は依然として、そういう受け入れられるものじゃないと、そういうことを広島の教師達に向けてられた攻撃が端的に示している。

私は市芦の追放された教師達とつき合ってきて、彼らは元気があるんですね、公平審でも、審理の翌日、あつという間にその記録がおこされて送られてくる。その情報収集処理の能力はすごいものがあつたと思います。青雲の軍団から学んだということの後から聞きました。

そういう元気がどこから出ていたんだろ

うかという、彼らは夏は山登り、冬はスキーに行き、昔は「若者よ体を鍛えておけ」という唄がありました。やっぱり体を鍛えてそこから元気が生まれてくるということがあつたと思います。そういうことが二年間飛ばされた先で「バイキン」のように救援会の仲間を増やし、元気を創り出してきた。その元気が三人を復帰させたと私は思っておるわけです。

やっぱり、発想として「しなやか」ということは大事じゃないでしょうか。弁護士の女性でも好きになつたら前後見境なく（笑）、僕は好きですと言つてつっこんでいく（笑）。そういうことをふくめて、こういうしなやかということが大事。

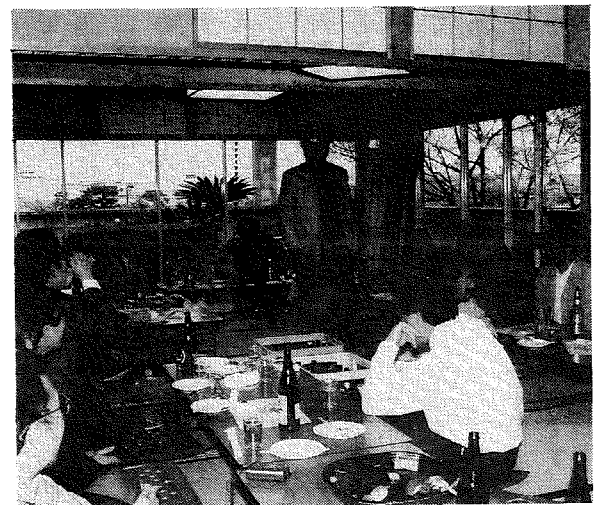
それから、活動、闘いのスタイルにおいて「したたか」であるということ。この二つは多くの人が持つてると思っています。

あと大事なことは、「志においてしなやか」と。さっきの永岡夫婦と子どもの話を聞いて、こういう家族ぐるみのしなやかさはかなわんなど思つてました。

発想においてしなやかであること。闘いのスタイルにおいてしたたかであること。志においてしなやかということ。こういうことを三人の先生の復帰は我々に教えてくれたのではないかと思つております。

しばらくかかりますけども、救援会にもうしばらく力をかしていただき、玉本先生

のご健康とご自愛をお祈りして、お開きにさせていただきます。ありがとうございます。



後記 〆五月二七日の判決公判が延期

四月一〇日は鈴木・吉岡先生を大いに励ます会となりました。ここに支援をいただきました皆様方に厚く御礼を申し上げます。

五月二七日の判決公判が延期になりました。在間弁護士の報告にありましたように、被告の判決引き延し作戦です。それと裁判長が異動でかわつたこともあり、弁論再開となります。早期判決を求めていきますので期日が決定次第お知らせいたします。